

2018/02/18

「蛇のようにさとく、鳩のようにすなおに」

「いいですか。わたしが、あなたがたを遣わすのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。ですから、蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。」(マタイ 10:16)

イエス様が、「蛇のように賢くありなさい」と命じておられるのは、自分に降りかかる問題を、私たちが自分で解決しなければならないということです。信仰さえあれば何もしなくても神様が解決してくださる、というわけではないのです。神様が助けてくれるわけではないのなら、信仰とはいったい何なのでしょう。

■信仰とは

1. 信仰は魔法の杖ではない

モーセが海を分けたり、イエス様が湖の上を歩いたり、病が一瞬で癒されたり、神様は、いろいろな奇跡を起こし、病も癒してくださいます。しかし、信仰があればどんな病も癒されるのであれば、パウロの病はいったいなんだったのでしょうか。信仰とは、私たちの願いをかなえてもらう魔法の杖ではないのです。

時折、信仰によってすべて解決されると考えて、自分で問題解決のために動きを起こしたり、病院に行ったりするのは不信仰ではないかと心配する人がいますが、そんなことはありません。

「蛇のように賢く」とは、問題に対応する賢さと信仰とは分けて考えるべきことを教えています。問題には知恵を使って賢く対処し、同時に、「鳩のように素直に」神様に信頼することが大切なのです。

2. 信仰は安息をもたらす

私たちは皆、心の安らぎを求めて生きています。そして、私たちが求めている本当の安らぎは、神との結びつきによって与えられる平安なのです。なぜなら、人は神に似せて造られたものだからです。

問題が解決して得られる平安は、見えるところの一時的な平安であり、人にとって本当の安息ではありません。神を信頼できるようになる平安こそが、人に最高の喜びをもたらします。神様が奇跡を起こしたり、問題を解決してくださったりする目的は、その先にある本当の安息に気づかせるためです。本当の平安とは、神と強い結びつきを持つことで、信仰はそれを助けるためのものなのです。

「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」（ヘブル 11:13）

神様に対して絶対的な信頼を持つことができれば、見えるところがどんな状態であっても、約束がかなえられている未来を信じて、喜ぶことができます。たとえ問題が解決しなくても、神を信頼することができれば平安があるのです。いくら問題が解決しても、神を信頼する信仰がなければ平安はありません。

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

（ヘブル 11:1）

安息とは、自分が望むことは神に保証されているという絶対的信頼があることです。神への信頼を増し加え、神との結びつきを強めてくれるのが信仰です。信仰は、現実問題が解決されるかどうかにかかわらず、私たちに平安を与えることができます。

3. 信仰は私たちの生き方を変える

すべての人は、心の底に潜在的な不安を抱えており、その不安を消すために愛されたいという願望を持っています。そして、その願望を満たすために、私たちは人から良く思われようとして生きているのですが、逆に、それが自分自身を苦しめる原因となっています。

私たちが抱えている不安のそもそもの原因は、神様と離れているところにあります。ですから、神様を信頼できるようになると不安がなくなり、人から安息を得る必要がなくなるので、愛されたいという思いから愛したいという心に変わります。愛することが喜びになるのです。信仰は、私たちに平安をもたらし、人との関係も新しくしてくれます。

私たちが、「鳩のように素直に」神様から平安を受け取って、愛されたいという関係から愛したいという関係に変わるなら、苦しみから解放されます。信仰は、神様と私たちを一つにし、私たちに愛をもたらし、人との関係も変えるものなのです。

■問題にぶつかったら

信仰によって平安を得たら、目の前の問題の解決に取り組みましょう。「自分で解決せよ」と言われたからといって、神様がまったく関与しないということではありません。どのように取り組めばよいのでしょうか。

1. 「天のお父様」と祈る

「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。」

(ヤコブ 1:2-3)

私たちは問題にぶつかると、焦ってしまって、人に頼ったり、見えるものに頼ったり、つい何かをしようとしてしまうものです。しかし、問題にぶつかった時、まずしなくてはならないことは、「天のお父様」と祈ることです。まずは、信仰によって、平安と喜びを手にししましょう。

「問題にぶつかって喜ぶ」とは、祈って平安を手にするということです。焦って何かをしようとする前に、まず鳩のように素直であってほしいと主は願っておられます。神に祈って平安を手にするところからスタートしなければ、気持ちばかりが焦って、現実の問題を解決することはできません。まずは神様を見上げて、平安を手にししましょう。

2. 知恵を求める

「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」

(ヤコブ 1:5)

神様は、知恵を与えて、問題の解決を助けてくださるお方です。ソロモンは、王になるにあたって、神様に知恵を求めました。信仰と知恵は、分けて考えるものです。

神様は様々なところから情報に気づかせてくださり、知恵を与えてくださいます。問題解決のために祈っても、病のために祈っても、世界平和のために祈っても、神様はそれぞれに知恵を与えてくださり、私たちがそれを実行することによって、具体的な解決の手段に導き、最善の治療に導き、それぞれの働きへと導いてくださいます。

3. できることを考える

「貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。」(ヤコブ 1:9-10)

知恵をいただいて一步を踏み出すために必要なことは、今の自分の状況を受け入れることです。貧しい人は貧しい自分をそのまま受容して、できることから始め、富んでいる人は富んでいる自分を受け入れて、できることから始めれば良いのです。置かれている立場や状況によって、それぞれできることが異なります。自分を受け入れて、できることから始める時、

神様が助けてくださるのです。

できることから始める、その一歩がなければ、前に進むことはできず、問題は解決しません。コツコツ続けていくなれば、気づかないうちに、神様が助けてくださって、問題は解決していたことに気づくものです。

重要なことは、鳩のように神を信頼する心を育てることです。問題を解決することで、神様を信頼する信仰が育ち、神様との結びつきが強められて、平安を手にすることができます。私たちがぶつかる問題は、それを通して信仰を育ててごらんなさいという神様からのチャレンジです。つぶやかず、信頼を育てながら、知恵を求めて、できることを行なっていくなれば、神様は必ず問題を解決してくださいます。問題解決をあきらめずに、神様への信頼を増し加えることができれば幸いです。これこそ神様が、私たちに与えたいものなのです。